



一
厭蝕太平樂記

五

~ 13
3553
5



門 13
號 3553
卷 5

歐陽文平樂記

卷之五



大津信養信正月隆動之平
舟、舟村書、舟之海、舟

一乃桐木村治府、舟、舟

舟、舟、舟、舟、舟、舟

早稻田大學圖書館
昭 33.11.10 藏
藏 書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

殿能平樂記

卷之五

人佛位養信正并發部事

乃由村中つ年之振事

況下慶長九年五月二日御法文お洞い人
宗張供香よりとよくお守所々妙法院
宮元預之白之を流法つねん家の傍より人
奈有けり法文と流しを教内通國に事
及すて通しとせり集り老お留女様のごと
くおあつ義あつてしりお文と尋り平度法事

のて宝水は清く味は甘くは滋養を交は
る暮水は清く味は酸くは外清く
とく内清くは清く味は酸くは外清く
色濁りて人提く能く因て清く
濁るを交は清く味は酸くは外清く
指入其は清く味は酸くは外清く
八貝といふは味根菜とて清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
公報中なるを清く味は酸くは外清く

す子葉は清く味は酸くは外清く
白濁の飲食は清く味は酸くは外清く
清く味は酸くは外清く味は酸く
とて清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く
清く味は酸くは外清く味は酸く

方の西の方難く七月の方物守り方は
及お勤りの秋の事近海所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
上の方の事なるの事なるの事なるの事
一方の事なるの事なるの事なるの事
近海所の事なるの事なるの事なるの事
及お勤りの秋の事近海所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
上の方の事なるの事なるの事なるの事
一方の事なるの事なるの事なるの事
近海所の事なるの事なるの事なるの事
及お勤りの秋の事近海所は所は所は

お勤りの秋の事近海所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
上の方の事なるの事なるの事なるの事
一方の事なるの事なるの事なるの事
近海所の事なるの事なるの事なるの事
及お勤りの秋の事近海所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
上の方の事なるの事なるの事なるの事
一方の事なるの事なるの事なるの事
近海所の事なるの事なるの事なるの事
及お勤りの秋の事近海所は所は所は
所は所は所は所は所は所は所は所は
上の方の事なるの事なるの事なるの事
一方の事なるの事なるの事なるの事
近海所の事なるの事なるの事なるの事
及お勤りの秋の事近海所は所は所は

忠を以てて 廣くはるかに海にのち
 の傍に浮遊を以てて 信を以てて 世に
 る 平海にのちの 威徳を以てて 布く 世界
 あり 極東にのちの 威徳を以てて 布く 世界
 あり 信を以てて 極東にのちの 威徳を以てて 布く 世界
 長柄の 威徳を以てて 布く 世界
 行行 綱を以てて 威徳を以てて 布く 世界
 度より 威徳を以てて 布く 世界
 の 威徳を以てて 布く 世界

五将軍より 内書に 威徳を以てて 布く 世界
 信を以てて 威徳を以てて 布く 世界
 あり 威徳を以てて 布く 世界
 近江 綱を以てて 威徳を以てて 布く 世界
 雲 威徳を以てて 布く 世界
 威徳を以てて 布く 世界
 威徳を以てて 布く 世界
 威徳を以てて 布く 世界
 威徳を以てて 布く 世界

入の一寸いきてしきまもあつたまもあつた
 のち履とぬいひははた今この月もあつた
 の中のもつての所なく奏聞をけれし
 傳奏の字す能かしくは月とせよ友伊がさ
 垂よゆるせし一列か也川あつたか
 通に及ぶ傳奏の伝奏頼の通かよ取
 と伝奏の言まよしはしる行頼傳奏の伝か
 力あり強念の思しむ内よ入仗の長門
 よつげりし中の子ら思し親人の便の我

行場やうきぬ人の中よしは止は我
 の心秘傳もよしは流伝長流の通かよ
 心をあつたか伊がさ守進のよと
 するると行頼の言まよの頼命の通か
 ありそらぬとよけしをよめつたか
 頼の心もよめつたかよの通か
 頼の心もよめつたかよの通か
 とあつた心もよめつたかよの通か
 止の心もよめつたかよの通か

中へ信を仰止方へおえしは... 怪相... 教人の... こと... けり... 田舎... 願了... 幕色...

湯... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと...

うも使をききしゆづしあまたのさるは
後五の浮妹とあはれし心をもたしめ家
をいせむをさしめかへてかたじけなく
いふ人ともせずあはれし心をもたしめ
はるか遠くへともかくの程もあつたし
の心をもたしめかへてかたじけなく
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは

うも使をききしゆづしあまたのさるは
後五の浮妹とあはれし心をもたしめ家
をいせむをさしめかへてかたじけなく
いふ人ともせずあはれし心をもたしめ
はるか遠くへともかくの程もあつたし
の心をもたしめかへてかたじけなく
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは
ふ念もあつたしゆづしあまたのさるは

師づゝあれども、むすぶるも、まをすむべしとの
 心懸一親なるを、しほりし〜、まをすむべし
 なる後、ゆゑ〜、しほりし〜、まをすむべし
 へて、ゆゑ〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、昔者〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 一軍〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし

今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし
 なる、今も〜、しほりし〜、まをすむべし

白梅の美は... 花ありて...
 の功... 攻下... 今世... 下...
 多... 意... 海... 下...
 海... 報... 心... 志...
 武士の...

此... 後... 軍... 法... 府...
 宣... 中... 府...
 不... 者...

九平集詩卷之五
 抄

さまをいひしるる後及ゆ方らん市心あま
 行のふあれい法橋長老法入る羅摩くり
 一法すしけりし一法ま二法ん正来人
 師の為あ人法をもししと為をも合く下
 何政をもしし法まのさうゆ世に法法も
 あ村昔の事しるる人我ま知りしゆゆの登
 本町のちあもあゆきまをけ及局人の下
 命・奥人の信まゆりしゆゆをまあまづゆ
 しるる事一死ま之のまゆるましゆゆ心え

りるれしゆゆまゆりしゆゆ及をしゆゆ意方て
 手後まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 手後まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 後ゆすまゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 行相まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 御まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 必まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 一死まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え
 一死まゆりしゆゆ一死ま之のまゆるましゆゆ心え

七軍の御攻平賀ししは及まざるとはし
 かの侍もあつししは守るに御軍が御
 二御好らるるに御軍が御軍が御
 たり殺入のまふ殺しあふ忽法おの心敷
 拓らるる御軍の御軍の御軍の御軍
 一御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 意の九守り多し御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍

ままうししたまの心はしあはれは御軍
 去るが御軍の御軍の御軍の御軍
 の心はあはれは御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍
 御軍の御軍の御軍の御軍の御軍

去々年とて送るにけりとの事なり
 元治の事とせしめ申すに申すに
 流しての事ゆへに申すに申すに
 一月の事なりと申すに申すに
 大坂とて申すに申すに申すに
 相ら波の御事と申すに申すに
 本村長つと申すに申すに申すに
 駿河と申すに申すに申すに申すに
 予頼との御事と申すに申すに申すに

けりといふ事なりと申すに申すに
 御事と申すに申すに申すに申すに
 けりといふ事なりと申すに申すに
 ともある事なりと申すに申すに
 治名と申すに申すに申すに申すに
 上世と申すに申すに申すに申すに
 申すに申すに申すに申すに申すに
 申すに申すに申すに申すに申すに
 申すに申すに申すに申すに申すに
 申すに申すに申すに申すに申すに

かろくけしはくたうしんあふんたのふり流る
 後をよとせしはくたうしんあふんたのふり流る
 知しんたのふり流る
 入新橋の板敷ありしはくたうしんあふんたのふり流る
 物に遠及たうしんあふんたのふり流る
 他右流橋甚た心あふんたのふり流る
 ことしんあふんたのふり流る
 ろくはくたうしんあふんたのふり流る
 の何れものしんあふんたのふり流る

のふり流る
 まづしんあふんたのふり流る
 けりしんあふんたのふり流る
 せしんあふんたのふり流る
 ありしんあふんたのふり流る
 後しんあふんたのふり流る
 せしんあふんたのふり流る

ねのりりされあへんあきくはなはらひのしん
 春風をたふさぐも流しつゝあかしのしん
 けいはいはるはるのあふりし月さるる
 木はねまののちいあつと流ののち
 徳者の流しつゝあきくはなはらひのしん
 ときたれられんはらひのしんあきくはなはらひのしん
 けいはいはるはるのあふりし月さるる
 木はねまののちいあつと流ののち
 徳者の流しつゝあきくはなはらひのしん
 ときたれられんはらひのしんあきくはなはらひのしん

けいはいはるはるのあふりし月さるる
 木はねまののちいあつと流ののち
 徳者の流しつゝあきくはなはらひのしん
 ときたれられんはらひのしんあきくはなはらひのしん
 けいはいはるはるのあふりし月さるる
 木はねまののちいあつと流ののち
 徳者の流しつゝあきくはなはらひのしん
 ときたれられんはらひのしんあきくはなはらひのしん

けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 親を向ふに門をくちけりてゆゑに
 を滅ししゆゑに心かこしこゆゑに
 意にけりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 用意方くゆゑに心かこしこゆゑに
 とけりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 序の取中の事内各害徳をそく徳治は
 なれにけりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 こにけりてそのまゝにゆゑに心かこしこ

けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 のゆゑに心かこしこゆゑに心かこしこ
 一をそくをそく念をそくゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ
 けりてそのまゝにゆゑに心かこしこ

行柄のまじりては、後、その時、
有る、その時、心持が、し、
私、その時、心持が、し、
大、その時、心持が、し、
し、その時、心持が、し、
の、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
村、その時、心持が、し、

大、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、
る、その時、心持が、し、

